

魅力あふれる加茂地区

アート×ミックスは1年延期となりましたが、今回のポスターに使われたトネルの途中の天井が抜けたような写真が、こぼれ落ちたものか、存知でしょうか？私もわからなく、月崎地区の方に聞いてみたらクオードの森の近くにあるその場所を教えられました。加茂地区の人でもおそく月崎地区以外の人でその場所を知る人はあまりいないのではないかと思います。チバニンの場所にしても話題になってから初めて行ったので、県道81号

里山からの発信



線からあんなにも高度差があることや、そこに流れる川が崖がフラットになっていて幅が広く、そのため水が薄く流れ長靴さえあれば川の中を歩けることも多々行ってみてわかったことです。古敷川の支流の西川についても、初めてそこに行った時に、加茂地区にもこんな場所があるんだと、その存在に感心しました。先週改めて岨穴のある西川の川の中を歩いて上り、加茂地区の人でも実際にここを見たところのある人はどのくらいいるのだろうかと思いました。今でこそ杉林の杉を倒し、玉葱竹を切り払い道を整備して明るく歩きやすくなりましたが、最初に行った時は大きなシダがあったりして原始の森に入らなような気がしました。地元の人でもここを知る人は少ないと聞いて

ちゅーちゅーちゅー

育て、観察する。今出来ることは心を穏やかに保つこと。去年から平穏でいられない状態が続いている。何もかも予定通り進んでいない。ここで疲弊している場合ではない。ちゅーちゅーと立ち止まって見る。何気なく見ているものを、もっと注意深く観察する。万田野ビジネスパークに、牛久MBCの子供たちと植えた水仙の花が咲いているが、作業した場所（この時期期間隔）になっているような気がする。咲いた場所により、作業風景が蘇ってくる。手が届くところまで登って植えていたりした。夢中になる姿が微笑ましかった。自然は何があっても待った無し。これらもひまわりの種を蒔き、ホタルの観察もする。自然との付き合いは変わらない。

(天曾根R里山通信員)



第9回町会紹介 養老町会

養老町会は現在89軒で東原、南原、西原の3つの区域から成ります。それぞれの区域で役員を選出方法や行事や風習などが少しずつ異なります。東原地区はまた3つに分かれ、旧高滝小学校のあるあたりの北崎地区では「うなぎを食べてはいけない」という風習が残っていますが、その他の地区にはありません。昔うなぎに助けられたことがあり、それ以降うなぎを食べなくなったといわれています。養老川でうなぎがたくさん取れたこともわかります。

この3つに分かれた地域の交流というものが無いので、学校関係や、消防の関係、町会の役の関係などで互いを知ることになります。しかし、年代が隔たっていたり、そういう関わりに関係していなかったりすると互いに知らないことになりがちです。これを少しでも改善し、互いを知る機会を作ろうと企画されたのが養老祭でした。以前この通信で紹介しましたが、そのための資金を町会独自の資源回収をして作るようになってから始

めました。現在もそれは続いており、資金はほとんどプールされています。昨年と今回の養老祭を行う予定でしたが、台風15号の被害を考慮して中止となりました。今場として借っていた旧高滝小学校の体育館も、小学校全体が東原バスに貸し出されることになったため、会場をどうするかを多々考えてはなりません。町会に所属するもう一つの収養業は高滝駅前日曜日に開催している「あんでんかん」の産直です。100円の品が多いのですが、売り上げの1割を手数料としていただいても回を重ねるといい収益になります。現在13名が関わっていますが、出品者ではなく、あくまで店番をするボランティアです。現在は朝7時から9時半頃までの営業となりましたが、販売もできることながら日曜日にみんなが集まり、いろんな話をしたりコーヒーを飲んだり芋を焼いて食べたり、現場が作業場になって物を作っていました。活気のある場になっています。やっという楽しい場であるので、新型コロナの影響で休止することをなくしてしまつたのはとても残念です。この産直は今年で7年目になります。最初は最初からずつと出品してくれている人がいます。東原地区の右井正雄さんです。今年の2月で100歳を迎えました。養老の達人です。現役で畑仕事はもちろん、草刈りや花の世話などいつも体を動かしています。雨の日も風の日も欠かさず何かを出品してくれまます。今年の誕生日のお祝い産直メンバー全員で行いました。いつもスチール製の1輪車で品を持ってきてくれるのでアルミ製の軽量の1輪車をプレゼントし、みんなでシークリームを食べ、甘酒を乾杯しました。軽い1輪車を一つ持っていないみただいと殊の外喜んでくれました。いつまでも元気だいてほしいというのがみんなの願いです。

養老は昔から住んでいても便利どころでした。西岸良平が描いた「三日目夕日に描かれた頃と同じ昭和30年代か40年代にかけてが黄金期でした。今のセブンイレブンの信号のところがライリーの先の北崎橋のところが駄菓子屋、文房具屋、荒物屋、飲食店、割烹、美容、理容、米屋、酒屋、魚屋、惣菜屋、建具屋、自転車屋、車屋、ペンキ屋などがあり、さらに駅と病院と加茂公民館、農機、スタンド、郵便

局が目の前にあり、日常必要なものが全て揃っていました。しかし、車社会へと時代が変わり、遠くに足を伸ばせて買物や通勤などができるようになるにつれて高滝駅も無人駅となり、商店も徐々に姿を消して行きました。現在ではコンビニが2軒あるだけとなりましたが、コンビニが2軒あるだけでも今の加茂地区にあって画期的です。

この養老地区の抱えている問題は他の地域と同じように少子高齢化です。子供の数が昔に比べ圧倒的に少なく、将来の町会がどうなるかという点も少なく、将来の夫婦が町会に加入されたこと。これからの加茂地区には他の地域から若い人たちが入ってきてもらうことが必要です。

養老町会に限らないことですが、新しく入ってくる人たちが大いに歓迎し世話をしあける体制を作ることが求められます。



(天曾根R里山通信員)

いつもと紀行 勝手にアート×ミックス

3月から開催予定だった「房総山芸術祭アート×ミックス2020」が来年に延期になったことは、すでに皆様も存じのことと思います。新型コロナウイルスの影響で、プロ野球やJリーグ、解放閣でつれづれ（丸）フットナメントまで開催を見守る時世です。オリンピックまでもが延期ですから、仕方ない決断であったと思います。



総合ディレクターコメント



いたとき、過去最大規模の芸術祭として来場者の皆様をお迎えするつもりでしたが、この度の新型コロナウイルス感染症による被害拡大の状況を鑑み、来春の開催とすることを決定いたしました。

開催延期に関して、市の公式コメントは次の通りです。

■実行委員会会長、いちほらアート ×ミックス2020

「房総山芸術祭は今年春の開催を目指し、準備を進めてまいりました。17の国と地域から87組と、当初予定していた数倍以上の作家の皆様からご参加をいただきました。今年春の開催を目指し、準備を進めてまいりました。17の国と地域から87組と、当初予定していた数倍以上の作家の皆様からご参加をいただきました。今年春の開催を目指し、準備を進めてまいりました。17の国と地域から87組と、当初予定していた数倍以上の作家の皆様からご参加をいただきました。」

来春の芸術祭は、今春実施を予定していた内容と同規模での開催を定めております。桜や菜の花が咲き誇る里山アートが彩る市原市で、2021年の春お待ちしております。

いちほらアート×ミックス実行委員会会長（市原市長）小出 譲治

総合ディレクター 北川 フラム

各会場では開催に向けて準備が進んでいて、主催者である市原市や北川フラムさんをはじめとする作家の皆さんも、仕方がないという気持ちと残念という感情でいっぱいだったと想像できます。

今回は小湊線の五井駅から養老溪谷駅まで、市内を縦断する形で市原市全体を会場として見立てていただけに、開催が楽しみであったことは皆さんも同じだったと思います。

今回のアート×ミックスですが、開催準備が進んでいたことで、作品を鑑賞できるものがあります。旧朝生原小学校の跡地では昨春秋の台風で倒れた銀杏を使った作品、月崎駅の森ジオ。月出小学校では連休中も何人も作家さんが留守まり、月出のほうが安全らしい。作品制作をしている予定、川開きの作品は完成済み、など。

市のホームページでは、作品紹介や北川さんの解説付きラムも掲載されていますので、そちらで調べながら、自分だけの芸術祭を楽しみたい方も、興かと思えます。くれぐれも、コロナ対策の3密を避けるようにお願いします。

里山の御馳走 春の山菜を楽しむ

都市部では、大変な世の中になっています。しかしながら加茂地区では、菜の花、桜、新緑に彩られています。今年はやや暖かいため時期が早く、「若つづじ」が3月下旬から咲きました。こんな時だから「里山の御馳走」山菜を楽しみましょう。

《キャラプキ》

野ブキが出始めました。キャラプキ名人の皆さんはそれぞれにとっておきの場所があり目星を付けてあります。長靴を履き、手袋をして手には鎌を持ち、籠を背負って出かけます。マムシやヒルには要注意です。

※弁当持ちで出かけることもあります。籠いっぱい採ってきた野ブキは葉を落としてからよく洗い、5cmくらいに切りそろえ、大鍋で茹でます。茹で加減が大事です。（あまり茹ですぎるとはげはなし）湯を切り、しょうゆ、みりん、赤唐辛子を入れて煮ていきます。

ここで登場するのが七輪です。長時間煮るので、キャラプキ職人には必需品です。味付けは各自様々です。市販のめんつゆだけで煮る人もいればササメを入れて少し甘く作る人もいます。煮あがったキャラプキはそれぞれに持ち寄り、品評会が繰り広げられます。たまにスパーでも野ブキを売っているところがあります。初心者には無理せず少量からガスコンロでも出来ますから、チャレンジしてみてください。



人と環境が一体となって大切な未来へ

自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311

市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511

南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111

URL <http://www.sugita-group.com/>

